

## 令和5年 第2回地域クラブ活動協議会

### 1. 開催日時 場所

令和5年11月29日(水)午前9時30分～11時30分 浜松市教育委員会 教育委員会室

2. 協議委員の出欠 出席： 奥家章夫 嶋野聡 笹原康夫 鈴木美佐男 市川真吾 桔川増雄  
野秋愛美 岡本雅康 玉木言明 堀内治之 藤田健次 鈴木三男  
加藤晴康（代理） 加藤元一 渥美伸俊（代理） 山本治之  
鈴木健一郎  
欠席： 徳田弘子

### 3. 事務局

浜松市教育委員会指導課

#### 協議に関する議事の概要

##### ○奥家委員長

協議に入ります。(1) 休日の部活動の地域移行に関する実態調査及び実地調査について、事務局から説明をお願いします。

##### ○事務局

実態調査の調査対象、調査時期、調査方法、調査項目はお手元の資料のとおりです。データ集計及び分析は「一般財団法人 しんきん経済研究所」に委託させていただいております。

調査対象 69,758 人に対し、61,158 人の回答をいただきました。回答率は 88% と非常に高く、有益な数値となっております。

結果について、論点の基礎的な部分を抽出して御報告します。

地域クラブ活動への参加希望について、小学生は 50% が参加を希望しています。中学生は 51% が参加を希望しています。小学生保護者、中学生保護者のお子様の地域クラブ活動への参加希望について、小学生保護者は 58% が参加を希望しています。中学生保護者は 61% が参加を希望しています。

種目別に見ると、地域クラブ活動で参加したい種目は、小学生ではサッカー、バスケットボールが多く、中学生ではソフトテニス、バレーボールの希望が多いことが分かりました。小学生保護者はバスケットボール、陸上競技、サッカー、中学生保護者はソフトテニス、バレーボール、陸上競技を多く希望しています。

一方、地域クラブ活動に参加を希望しない理由としては、小学生・中学生ともに「自由な時間がほしいから」との回答が多くありました。次に多かったのは、「地域クラブ活動がどのような活動になるか分からないから」という回答でした。小学生保護者、中学生保護者においても、「自由な時間がほしいから」「地域クラブ活動がどのような活動になるか分からないから」との回答が多くありました。

地域クラブ活動の指導者については、小学生は「楽しむことを優先してくれる人物」、中学生は「技能を向上させてくれる人物」を多く希望していました。小学生保護者、中学生保護者は、どちらも「技能を向上させてくれる人物」を多く希望していました。

地域クラブ活動の活動場所については、小学生、中学生ともに在住学区の小・中学校を一番多く希望しています。小学生保護者、中学生保護者も、在住学区の小・中学校を一番多く希望しています。

地域クラブ活動の運営団体・実施主体はどのような団体を希望するかについては、中学生では、中学校地域クラブを一番多く希望しています。なお、小学生ではこの質問は実施していません。小学生保護者、中学生保護者は、スポーツ協会加盟団体を多く希望しています。

次に教員です。「部活動顧問に負担を感じているか」では、53%の教員が負担を感じていることが分かります。負担を感じている点としては、時間的拘束、大会等の引率、審判が多く回答されていました。

地域クラブ活動への参加希望ですが、運営面で携わりたいことを希望する教員は18%、指導面で携わりたいことを希望する教員は22%でした。種目別にみると、運営面でも指導面でも、サッカーや軟式野球を多く希望しています。

「どのような運営団体・実施主体に携わりたいことを希望するか」では、運営面、指導面ともに中学校地域クラブが多く回答されています。

報酬について、運営面で携わりたいことを希望する教員では、「時給1,000円以上1,500円未満」が21%、指導面で携わりたいことを希望する教員では「時給3,000円以上」が25%となっています。

次に部活動指導員です。種目別にみると、軟式野球、バレーボール、吹奏楽に多く配置されています。

地域クラブ活動への参加希望については、37人中運営面では27人、指導面では31人が携わりたいことを希望しています。

「どのような運営団体・実施主体に携わりたいことを希望するか」では、運営面、指導面ともに中学校地域クラブが多く回答されています。

報酬については、運営面、指導面ともに「時給1,500円以上2,000円未満」を妥当と考えている方が多いことが分かります。

次に外部指導者です。種目別にみると、卓球、ソフトテニス、バレーボールに多く在籍しています。

外部指導者の、地域クラブ活動への参加希望については、49人中運営面では27人、指導面では41人が携わりたいことを希望しています。

「どのような運営団体・実施主体に携わりたいことを希望するか」では、運営面、指導面ともに外部指導者も中学校地域クラブが多く回答されています。

報酬については、運営面、指導面ともに「報酬を必要としない」との回答が多くありました。

続いて各種関係団体への調査結果です。まず、中学校地域クラブです。運営団体・実施主体となることについて、62%が「いいえ」と回答しています。その理由として、「指導者に関することについて不安があるから」という回答が多くありました。

スポーツ協会加盟団体では、運営団体・実施主体となることについて、11団体中8団体が「いいえ」と回答しています。その理由として、「指導者に関することについて不安があるから」という回答が多くありました。

NPO法人では、運営団体・実施主体となることについて、8団体中5団体が「はい」と回答しています。「いいえ」と回答した団体は、「費用に関することについて不安があるから」という回答が多くありました。

吹奏楽連盟加盟団体では、運営団体・実施主体となることについて、12団体中6団体が「はい」と

回答しています。「いいえ」と回答した団体は、「指導者・活動場所に関することについて不安があるから」という回答が多くありました。

総合型地域スポーツ・文化クラブでは、運営団体・実施主体となることについて、7団体中4団体が「いいえ」と回答しています。その理由として、「指導者・活動場所・費用に関することについて不安があるから」という回答がありました。

なお、中学校地域クラブと浜松市スポーツ協会加盟団体において、多くの団体が地域クラブ活動の活動場所として、在住学区の小・中学校や公共施設が適切だと考えています。NPO法人や吹奏楽連盟加盟団体、総合型地域スポーツ・文化クラブでも同様の結果でした。

最後に実地調査について報告します。市内全域、全ての行政区を対象に、スポーツ・文化の様々な競技や種目を念頭に置き、現時点で団体や個人合計16団体を対象に、聴き取り調査を実施しております。

実地調査では、どの団体においても、子供たちがそれぞれの競技の専門的な指導を受け、生き生きと活動する姿が見られました。ここでは、実地調査で直接伺った内容の中から、主に休日の部活動を地域移行する際に課題となる点について、聴取した内容をまとめて報告いたします。

まず運営団体・実施主体に関する課題として、「持続可能な団体となるのは難しい」「団体を運営する担い手がない」といった声が聞かれました。指導者については、「指導者を確保することが難しい」「専門的な指導力を備えた指導者を確保することはさらに難しい」といった不安の声、活動場所については、「学校等が使用できるような制度をつくってほしい」、また「楽器を確保することや管理することが難しい」といった声、費用については、「指導者への報酬に加え、運営費などを考えると、具体的にどれくらい参加者から徴収したらよいか分からない」、「運営資金を確保することも難しい」といった声、学校との連携については、「中学校といつ、どのように連携を取ったらよいか分からない」などの声を聞くことができました。

#### ○奥家委員長

一通り御説明した中で、委員の皆様からの御意見を伺います。

#### ○鈴木美佐男委員

全体を通して、地域クラブ活動への参加希望が、小中学生ともに50%になっています。それから、小中学生保護者も半分以上が地域クラブ活動に参加をさせたいと思っています。参加したいという50%の子供のために、どのような対策を練っていくかが地域クラブ活動に移行していった場合の課題になるのではないかと思います。指導者の面では、適切に指導できるかどうかという不安があります。現在、中学校の部活動顧問の先生方でも、全員がその競技等の経験者ではないということで、指導には不安があるという意見があります。地域に移行していった場合に、その指導者をどのように選定をしていくのか、依頼をしていくかという課題に加え、各種団体で指導している方も含めて、このアンケート結果では不安があるという意見が出ています。

それから、子供たちの約半分が参加したい、保護者も半分以上が参加をさせたいという希望を持っているということは、土日であっても、地域クラブ活動ができる機会を提供していくことが妥当かと思っています。

ただし、費用の問題になっていった場合に、保護者は小学生、中学生ともに、1ヶ月あたり1,000

円から 4,000 円の範囲が大多数です。一方で指導者の方から見ていくと、時給で 1,000 円から 2,000 円ぐらいを希望しています。土日に地域クラブ活動としてやっていったときに、その費用の整合性をどのように取っていくか、どこかで支援をしていく必要があるのか、というような問題も出てくると思います。

#### ○市川委員

回答率について、小学校 4、5、6 年生及びその保護者、中学校 1、2 年生及びその保護者からの回答が大体 9 割近くということで非常に高い回答率だったと思います。現在の浜松市内の中学生の生徒の数が大体 2 万人ぐらいいるので、希望する 5、6 割ということになると、現時点でも 1 万人から 1 万 2,000 人の生徒が、休日の地域クラブ活動に参加したいという希望を持っているということです。徐々に移行していくことになるかと思いますが、それだけの受け皿を用意する必要があるという規模感についても、このスタートの時点でしっかりと受け止めていただきたいと思います。

それから、地域クラブ活動への参加を希望しない理由について、「地域クラブ活動がどのような活動になるのか分からないから」という回答が非常に多くありました。早い段階で運営団体・実施主体の軸をどうするのかというところを決め、「このような形で運営していく」という案を示すことで、保護者も具体的なイメージがだんだん沸き、分からないことによる不安が減っていくかと思います。適切な情報発信をしながら徐々に進めていくことを、広く周知していただく必要があると感じました。

#### ○桔川委員

調査結果から子供たちの地域クラブ活動への参加希望は半数しかないのですが、どのような受け皿で、どのような活動なのかが見えるようになると、休日の参加の希望は多くなると思います。なお、休日において、例えば土曜日の半日だけの活動というように絞ることで、さらに参加率も上がっていくと思います。

中学生は部活動として大会に参加したいという希望を持っているということが分かりました。大会も先生が関わられるような運営がよいのではないかと考えています。平日は先生方に部活動を見ていただきながら、土日は地域がサポートし、先生の負担を軽減していくような、複合的な形がよいと思います。

また、学校単位の中学校地域クラブが手を取り、一つの団体をつくっていけば、より大きな受け皿になるのではないかと思います。市内全体で中学校地域クラブの数がどれだけあるのか、分かれば知りたいです。

総合型地域スポーツ・文化クラブは、関係する多くの方々をまとめる事務局、コーディネーターの役割が非常に重要です。今回のアンケートでは、運営について責任を持つことは大変だという意見があると感じました。当然進めていく上では、費用も多くかかるし、活動場所も大事です。今後、そういうところを議論していただければよいと思います。

#### ○事務局

中学校地域クラブについては、現在 122 クラブの登録があります。随時受付を行っておりますので、今後増えていく可能性があります。昨年度、一昨年度もおおよそ 120 団体程度と一定数を保っています。

#### ○奥家委員長

中学校地域クラブについては、これからの議論の中で重要な受け皿となっていく、個人的には非常に期待感の大きい団体であると思っています。ただ、運営という組織的なつくりについては、なかなか難しい部分があります。よって、受け皿となっていくには、行政として、市として何ができるのかについて、今後、議論が必要になってくると思います。

#### ○堀内委員

スポーツ協会加盟団体では、役員の高齢化もあり、指導者の育成までできていないという加盟団体があります。これから加盟団体にとっても指導者育成というのは大きな課題になってくると思います。

スポーツ協会では、加盟団体にいろいろな教室を開いていただいています。今の段階では部活動があるため、中学生を対象にしている競技団体が多くあります。今後、どうやって各競技団体が中学生の活動の受け皿となっていけるかが課題だと感じています。将来的に部活動を廃止していくのかどうかという問題として捉えるのかによって、体制づくりをもっとしっかりやっていかなければいけないと感じました。

あとは、運営にかかる費用の負担が出てくるため、就学援助が必要となる家庭への支援ということは、行政が入っていかないと難しいと思っています。

#### ○藤田委員

小中学生の子供たちに対して希望する活動は何かというところで、文化面で見ると小学生では、科学・パソコンが一番、次が美術です。中学生になると、吹奏楽が一番で、美術、科学・パソコンという順になります。保護者も同じような傾向です。

一方で、教員が携わるのを希望する種目は、スポーツが上位に並んでいて、美術、科学・パソコンは皆無です。それから部活動指導員としては吹奏楽・オーケストラが上位にありますが、科学・パソコンはいません。美術は1人です。どちらにしても文化面で、子供たちが小学校・中学校で希望している種目に対して、指導者となる先生方や部活動指導員、地域の方とのミスマッチが起こっているのではないかと感じます。活動の多様性の面からも、地域クラブ活動を考えていかなければいけないし、それを可能にする制度設計というものもしっかりしていかなければならないと感じました。

それともう一つ、吹奏楽連盟加盟団体で、12団体のうち6団体が受け皿として可能と答えています。

一般の吹奏楽団体は、自分たちが演奏をするために活動をしていると想定しておりましたが、半分の団体が子供たちの育成に対して関心をお持ちになっているということは、大変ありがたいことだと感じています。ただ、指導者や活動場所、費用ということでのハードルが高いと感じられているため、こういったところもサポートしていくことで、多くの方々が参画できるようにしていくことが大切だと考えます。

#### ○奥家委員長

委員の御意見からも、調査結果からより詳細な実態を把握するために、質問項目とのクロス集計をにかけていくことが必要だと感じますが、クロス集計を出すことは可能ですか。

#### ○事務局

可能です。

#### ○鈴木三男委員

実態調査から、学校の先生方の負担が非常に大きく、これまで学校の先生の善意で行ってきた部分が大きいと感じます。給特法の問題も含め、報酬の面に関しても先生方の善意で「子供たちのため」という一言で頑張っていたいてきたということが背景にあると思います。

これを地域移行する場合に、コスト面、人的な面において問題が顕在化してきています。これは全国的な傾向ですが、道筋を立てて解決していくことは非常に大変だと思います。

一部の吹奏楽の関係者は、部活動の地域移行への意識が高い方が多くいます。指導者としての役割を担える方も多くいます。そうした土台があるので、一部の地域では地域移行を進める意識が高まりつつあるのだと思います。

こうしたアンケートを通じて、おそらく学校、地域、スポーツ・文化の団体に関しても、意識の変容が求められていると思います。その中で、浜松モデルをどのようにつくっていくかだと思います。

#### ○加藤晴康委員

小中学生及び保護者の 50%以上の方が地域クラブ活動にかなり高い意識を持っていることを改めて認識しました。「地域クラブ活動の指導者は、どのような人物を希望しますか」という質問で、小学生、中学生は「楽しむことを優先してくれる人物」を望む一方、保護者は「技術を向上させてくれる人物」とスキルアップを望まれていることが確認できました。本市にも、スポーツ推進委員がおり、地域のスポーツ団体と連携、協力し、地域スポーツの企画立案などに取り組んでいます。今後、スポーツ推進委員やスポーツ協会研修している地域スポーツ指導者に対し地域クラブ活動協議会として、さまざまなスキルアップが求められているのではないかと感じました。

また、指導者の報酬についてです。地域においても、ボランティア活動に無報酬で運営に携わってくださる方が多数いると思います。報酬を支払うことは、継続的に活動を続けていくためにも大事なことだと思います。

#### ○加藤元一委員

地域クラブ活動に携わることを希望する教員が、運営面では 18%、指導面では 22%でした。もう少し高いかと思っていましたが、「負担になる」という先生方の本音がアンケートで見えると思います。外部指導者の方がボランティア的に、それぞれの種目で活動しています。外部指導者の活動を継続していく上での在り方や、新たな形で人材を発掘し、地域クラブ活動が運営できることが理想ではないかと思っています。

#### ○岡本委員

教員が地域クラブ活動の指導者として携わることへの希望が 22%でした。この結果は、浜松市はもう少し高いかと思っていました。他地区の情報も今まで聞いていましたが、この結果はそれらとあまり変わらないと思います。浜松は非常に部活動が盛んで実績をあげており、本当に常日頃から一生懸命部活動に取り組んでいる姿があります。教員は負担を感じながらも、子供のために熱心に指導されていると感じております。

今後、わずか 20%程度の中学校教員が、地域クラブ活動へどのように関わっていくのか。また、子

供たちを指導していく人材をどのように確保していくのかは、一番の大きな課題だと思っています。

次に、どのような運営団体・実施主体に目が向いているかという点で、中学校地域クラブが第一にあがっているのは、部活動に携わっている生徒、教員、部活動指導員、外部指導者からです。保護者については、スポーツ協会の加盟団体となっています。中学校地域クラブは、もっと活動したい生徒や保護者の思いから立ち上げています。

現在は、部活動を土日のどちらかで行い、もう1日を中学校地域クラブで活動しているところがあります。今後、休日の部活動がなくなって中学校地域クラブの活動のみになったとき、本当に満足できるのかを心配をしています。

#### ○玉木委員

部活動は、学校運営の歴史の中でも生徒指導面での効果もあり、保護者の方々も、子供たちや教員も、部活動は中学校の中で意義のあるものとして認識しています。新しい時代の部活動の在り方について考えていく中ではありますが、部活動は無償でお金はかからないものだという捉え方は、まだまだ根付いていますし、やはり学校の中で部活動が必要だという考えもあります。

部活動の地域移行について、子供たちや保護者、地域の方々もこれまで部活動の形で何とかやっていきたいと考えているところもあると思います。やはり、部活動を休日もそのまま継続していく形のもの、もう少し地域というものを大きく捉えて、もっと活動したいという子が、他の地域で活動するものと考えていくこともあると思います。部活動をそのまま地域移行するだけではない考え方もあると思います。休日だけの部活動をそのままのものとして捉えていくのか、もう少し広く捉えていくかは大きな課題だと思います。地域移行の捉え方をもう少しはっきりさせることも必要かと思っています。

その中で、地域クラブ活動に携わりたい教員が運営面で18%、指導面で22%います。人数で考えると、約300人の先生方は活動に携わりたいと言っているのですが、この300人ぐらいの先生方を、地域の方やスポーツ団体の方と一緒にどうやって活動していくかを考えていくことが大きな課題です。先生も子供たちも部活動をやりたいという、現在も部活動が盛んな実態があることを踏まえた上で、浜松市モデルのゴールの形を見据えた中で進めていくことが、大事だと感じています。

#### ○野秋委員

休日の部活動の地域移行について、「部活動の地域移行そのものに賛成ですか」という質問をしたら、どういった結果になるのかが気になりました。しかし、地域移行が前提であるという浜松市としての姿勢を踏まえ、このアンケートを見ていく必要があると私は思います。

そして、どういった姿や絵をイメージし、選んでいくかは、なるべく早い段階で必要だと思います。それが見えない中では教員も不安ですし、保護者や子供たちの回答の中に「部活動の地域移行がどういふものになるか分からないから」という理由があるのは、その表れだと思いました。

アンケート結果を見ると、負担を感じている教員が半分います。地域に移行したときに、負担かもしれないけれど役立ちたいと思っている、あるいは負担ではないから役立ちたいと思っている、地域クラブ活動に携わることを希望している20%の教員が、実際の活動をどう見ているかはこの結果だけだと分からないので、クロス集計して分析を進めていただきたいと思います。その実態を考えたときに、負担に思う人は負担が軽減される、活動したいと思う人が堂々と安心して活動できる仕組みをまずつくるべきだと思います。それが、指導者不足や指導者に対する保護者の不安を払拭する一つの方

法になると思います。活動したい人が安心してできるためには、そこに報酬や保険等、学校の教育活動として行っている場合と同じような保障があるという仕組みをつくる必要があると思います。

そのときに課題として考えられるのが、教員の兼職兼業です。これに関しては、時間外勤務が多い中で認めてもらにくい状況にあるのは事実です。学校の先生たちを指導している校長が、兼職兼業を認めてもらえるようにするには何をすべきか考えなければいけないという意識を持っています。

また、学校の部活動そのものをどのように考えるかということです。いずれ、地域に全て移行するかは分かりませんが、少なくとも平日の子供たちの活動に責任を持つ部活動に対して、現状のままでよいのでしょうか。自分が経験のない部活動の指導をしなければならない状況にある教員を抱える学校もたくさんあります。部活動の数についても、学校の状況に合わせて休部にしたり、場合によっては廃部にしたりする検討が必要だという意識を持つ必要もあります。

さらに、地域にどのような人材がいるのかということです。地域の子供たちのためだったら活動するという人が、もしかしたらいるかもしれません。学校運営協議会の協力をいただきながらそういった人材を掘り起こすことを、学校も目指していかなければいけないと思います。先進的にやっている学校運営協議会もありますので、そういった例を参考にさせていただいてやっていく必要があります。

これらのことについて、校長会として考えていきたいと思っています。

保護者の方々が、自分たちが経験してきたようなことを子供にも経験させたいと思っているとしたら、これは地域クラブ活動への期待というのは非常に大きくなり、学校の部活動に代わるものになってしまうので、そういうものをつくることは難しくなると思いました。

最後に、現在中学校地域クラブの数は 122 団体あります。中学校地域クラブの立ち上げ当初から、数は増えていません。増えない理由は何かと考えると、その年度ごとの保護者の力で何とか運営している現状があるからです。地域の人材で指導して継続できているところもありますが、保護者間で何とかがつないでいる現状では、中学校地域クラブを新しく立ち上げるのは難しいと言えます。中学校地域クラブを一つの受け皿として捉えたとしたら、どのような支援をしていくかということが大事です。それができれば大きな受け皿となることは事実だと思います。

#### ○嶋野委員

子供たちと保護者の意見は似て非なりだと感じました。子供たちが地域クラブ活動を「希望する」、「希望しない」で、今半々ぐらいのものにはなっていますが、実際「学校外でスポーツや音楽活動などの習い事をやりたいから」と目的がある子供たちが、小学生 16%、中学生 23%います。その他の人たちは意外とまだ流動的なのかなと思います。

この辺りは、地域クラブ活動により休日の部活動が今後どのように変わっていくのか、部活動をどのように考えていくのかというところを示していくことによって、自ずと変わってくると思います。ですから、地域クラブ活動の在り方について、具体的な情報を出していく必要があると考えます。

また、今後教員に指導を受けたいという中学生が 1,500 人くらいとなっています。これは約 20%です。地域クラブ活動の運営や指導に携わりたいと思っている教員も約 20%で、教員から指導を受けたいと思っている子供たちと同じぐらいの割合です。これを見る限り、やる気のある教員の方々から指導を受けていきたいのかなと思いました。

本当にやる気があって指導していきたいと思っている教員の方々をどうやって地域クラブ活動に携わっていただけるのかというところをうまく誘導していただければと思います。また、教員



の方々も、「本当はやりたいのだけれどもできない」というようなことを思っている方もたくさんいらっしゃると思います。こういった方々に携わっていただけるような支援を考えていってもよいのかと思います。基本的には、やりたいと思っている教員の方々の制度設計を考えていかないといけないのかなと思います。今後の制度設計をどうするかによって子供たちの意見も変わるかもしれません。部活動の流れでやるのか、それとも全く別のものになるのかということによって、子供たちの参加の仕方も変わってくるのかもしれません。休日は別のものという、カルチャースクールのようなものとして参加する形となるので、それらに参加したいという子供たちは増えるかもしれません。一方、そうすると大会等には出られないかもしれません。

このようなどころも考えながら、制度設計を考えていかないといけないのかなと思います。

#### ○鈴木健一郎委員

学校運営協議会の中でもやはり部活動のことは議論されているところもあるように思います。議論の内容は様々ですが、総じて将来どうなるのかというよりも、その地域の状況とか、学校の状況確認の議論です。学校運営協議会として、担い手や受け皿という視点で、今後の協議が必要になってくるのかなと思います。

#### ○渥美委員

子供たち、保護者の方々は、指導者は教員でなければいけないというこだわりはないのかなと感じられました。教員については通常業務においても長時間労働となっております。教員の視点から考えていきますと、やりたい教員、やりたくない教員の意向をいかに汲んでいけるかというところです。地域に移行ということになれば、労働時間の関係も絡んできます。今までは校長管理のもと、労働時間管理ができていますけれども、そうでなくなれば、労働時間をどのように管理していくのかというところもありますので、それらも含めた制度設計が必要でないかと感じました。

#### ○奥家委員長

指導者の確保の点から、教員の兼職兼業の問題というのは避けて通れない議論になると思います。教員の兼職兼業は、今の実態とするとどのようなものなのか説明をお願いします。

#### ○渥美委員

法令に基づくと、社会教育、学校教育に関連する部分は、原則、兼職兼業は可能であるという大きな枠でつくられています。文部科学省からも、地域クラブ活動に関する兼職兼業の指針のようなものが出てきており、現状の中での兼職兼業は、地域移行を踏まえた中で柔軟に対応するような言い方をしている部分も多々あります。労働時間管理も含めて検討しなければならない要素があります。

国からは、制度設計の組立は各自治体の方で考えるという形で話が来ています。それは地域クラブ活動への移行という形が、ある程度整ってきた段階で考えていく必要があると思っています。

#### ○野秋委員

整ってくるのを待っていると、学校の現状は変えられないとは思っています。同時にどのような状況になっていけば兼職兼業は認めやすいというところを我々も知らないといけないし、その辺りは今

後話をさせてもらえるとありがたいなと思います。目指す方向が明らかになっていくと、校長としてありがたいです。

#### ○奥家委員長

教員の兼職兼業については、国への確認や場合によっては制度改正の要望等を、この議論と併せてやっていく必要もあるのかと思います。

#### ○山本委員

先生方は相当部活動に負担を感じておられるという現状があるかと思っておりましたが、やはりそのとおりだと思いました。本当は授業に専念したいという先生方、または生徒指導に必要な準備に時間を充てたいという先生方が、非常に苦勞されながら、部活動のことを半分義務的にやっておられるような状況があるのかと思います。

第1回の協議会でもありましたが、文部科学省は、部活動を学校教育活動から切り離すということを目指しているのではないかと思っております。これを見逃すと、方向性は大きく外れていくのではないかと思っておりますので、地域クラブ活動については、少なくとも完全に学校から切り離して考えるのが筋ではないかと思いました。

また、活動場所ですが、やはり一番最寄りの学校、公共施設が、活動場所として考えられるということです。ただ学校のグラウンドなどについては、今でも地域団体等が使っておりますので、問題なく使えるとは思っています。一方、吹奏楽等、文化系の活動については、学校の管理上の問題もあり、今の施設では、そう簡単には使えないというような状況がございます。現在、第2次ベビーブーム期に相当数建てられた学校が、一斉に更新の時期を迎えています。部活動の地域移行も含めて、学校の建物を、部活動としての使用、小中学生だけではなくて大人や地域住民の使用等を鑑みて、使いやすものにしなければならないと思っております。そういうことを考えて、教育施設を整備していきたいと思っております。

#### ○奥家委員長

地域の活動、学校の活動も変容していくという時代で、ちょうど学校の建て替え更新時期を迎えています。新しい動きが出ているということであれば、それに対応する学校施設の在り様というのも含めて、進めていく必要があるのかなと思っております。

#### ○笹原委員

5点お話をさせていただきたいと思います。

まず1点目です。希望しない5割の子は、理由は何かと聞いたときに、「よく分からないから」という回答が非常に多いことです。今後、きちんと子供たちにも保護者にも、地域移行についてどういった形で伝えていくのかという大きな視点が生まれてくるのかなと思います。まだ十分伝え切れていないし、今後もそこは伝えていかなければいけないということを感じました。

2点目です。「地域クラブ活動の指導者はどのような人物を希望しますか」についてです。教員を希望する割合が低いということです。単に教員だから指導を受けたいということではないということが分かるわけです。だから、教員でなくても楽しいことを優先してくれる先生だとか、専門性を向上し

てくれる方であれば別に問題ないという捉えなのかなと思います。やはり、今後の議論の中で、教員だからという、単純なことではなくなってくるということを感じているところです。

3点目です。「教員の負担」という面です。負担を感じている教員は5割、そして感じていない教員が2割、このどちらの教員も大切にしていかなければならないということです。やはりこの地域移行の裏側には、教員の働き方改革ということが絶対にあるわけで、負担を感じている5割の方たち、そして運営面や指導面で8割の方が携わることは希望しないと言っている方がいるという事実は重く受け止めて、2割の方は安心して働いていけるようにしていくことを考えていかなければいけないのかなと感じました。

4点目です。「どのような運営団体・実施主体を希望しますか」の中で、教員、部活動指導員、外部指導者については、中学校地域クラブがトップに来ています。ところが、「中学校地域クラブに実施主体として携わることを希望するか」と聞くと、「いいえ」が6割以上となっています。その一番の大きな理由としては、指導者の問題であるということです。そのギャップ等を埋めていくことは、今後の大きな議論になってくるのかなと思います。

5点目です。報酬の面です。どれぐらいの報酬で運営面、指導面で携わるかということで回答が出てきています。指導者が安心して活動ができ、評価をした場合にこういった形がよいのかというのは大きな議論になってくると感じました。

#### ○奥家委員長

各委員の皆様方の御指摘を事務局で取りまとめ、クロス集計を含めたデータ分析を進めながら、最終的な報告書としてまとめていきたいと思っています。この報告書については、第3回の地域クラブ活動協議会の中で、皆様に御報告をしたいと考えております。

それでは、(2)他都市の状況について、事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

休日の部活動の地域移行に関する政令指定都市の状況について説明します。

実態調査の対象はそれぞれですが、ほとんどの市が実施しております。各市ともに実態を把握し、課題等を明確にしている状態と言えます。指導者確保の方策は市によって異なります。人材バンクの活用を考えている市が多いことが分かります。部活動指導員は市によって採用人数に差があります。横浜市は多くの部活動指導員を採用していることが分かります。担当部署は、札幌市・千葉市が今年度新設されています。今後の方向性については、浜松市・新潟市・静岡市・名古屋市は令和8年度を目安に移行を予定していますが、その他多くの市が未定となっています。

次に、他の自治体の具体的な取組を共有させていただくことで、部活動の地域移行の様々な在り方について理解を深めていただければと思います。

政令市の静岡市と名古屋市の取組について、説明いたします。

静岡市です。静岡市では、複数の中学校区を一つのエリアとし、エリア内の学校の部活動を統合し、活動します。休日はこのエリア制部活動の指導者が、地域人材や兼職兼業の届出をした教員となる「シズカツ」へと移行していく予定です。シズカツは、学校管理下ではない社会体育の扱いとなります。

続いて名古屋市です。名古屋市の小学校の部活動は、民間委託による新たな運動・文化活動を実施しています。小学校4年生から6年生までの、参加を希望する児童を対象に、火曜日から金曜日のう

ち3日間活動し、1週間で最大3つの種目に参加することができます。委託業者が指導者を各会場に派遣し、指導者の質を維持するための研修会も実施しています。

次に、静岡県内の掛川市と焼津市の取組について、説明いたします。

掛川市です。掛川市は、掛川市スポーツ協会や掛川市文化振興財団などの地域団体が運営団体として実施する「かけがわ地域クラブ」に移行する予定です。指導者は地域人材や教員です。「かけがわ地域クラブ」は、中学校区に関わらず種目を選択でき、活動場所や時間はクラブごとに決められています。今後は、令和8年8月に部活動を終了し、地域クラブ体制に完全移行する予定です。

最後に焼津市です。焼津市では、令和4年度より「焼津市地域クラブ活動」を段階的に進めています。令和4年度は5種目、令和5年度は新たに7種目を追加し、現在12種目で実施しています。運営団体は、地域の既存のクラブです。各クラブの募集案内を一覧にして子供や保護者が見られるようにし、参加者を募っています。

他市の取組をみても、地域移行の在り方は様々だということが分かります。

本市としましては、今後このような他市の取組も参考にしながら、実態調査、実地調査の結果の分析を進め、課題やニーズを把握し、地域移行の在り方について検討していく必要があるのではないかと考えています。以上です。

#### ○奥家委員長

今の説明につきまして、御質問または御意見等いただければと思います。

#### ○堀内委員

スポーツ協会が、静岡市のスポーツ協会と情報交換をしています。静岡市では、43校中学校があつて、それを15のエリアにするということが、現状の目標ではあると聞いています。対象はスポーツ13種目と吹奏楽と聞いております。モデル的なものということで、第1段階として令和5年度は2つのエリアで休日の部活動を行っていくということで説明されています。

#### ○岡本委員

中体連も静岡市からこの話は聞いています。エリア部活動というのは、基本的に隣接する3校で1つのエリアになるそうです。既に活動している様子を聞きますと、自転車での移動を認めています、なかには距離が遠くて行けなかったり、保護者の送迎が難しいため、参加できなかったりするなどの課題が見られるとのことでした。

#### ○奥家委員長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

#### ○事務局

本日欠席の徳田委員の御意見を報告させていただきます。

「吹奏楽においては、地域クラブ活動に携わることを希望する教員が比較的多いこと、また、運営団体・実施主体として携わっていただける可能性のある各種団体も一定数あるということが分かり、大変ありがたいと思います。一方で、吹奏楽の特性として、活動場所や費用面での不安がやはり存在

するという事も改めて感じます。本市として、金銭的な部分も含めた運営面でのサポートがないと、持続可能なものになっていかないのではないかと考えます。」以上です。

○奥家委員長

休日の部活動の地域移行となったときに、持続可能というのは、非常に大きな視点であると思っているので、ここは大きな論点になると思います。

今回の約7万人を対象にしたアンケート調査の結果については、統計的なサンプルとして参考になるということではなく、現在関係されている方々の総意という形のもものが表れているという意味で、さらに議論を深めていきたいと思います。

本日の協議については、これで終了とさせていただきます。ありがとうございました。